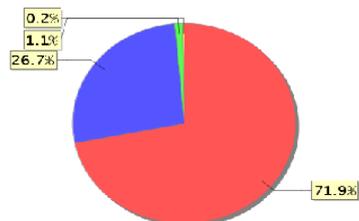


後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和 4 年度後期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

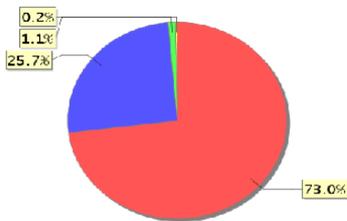
□ 自己評価の結果

授業中のマナーを守って受講しましたか



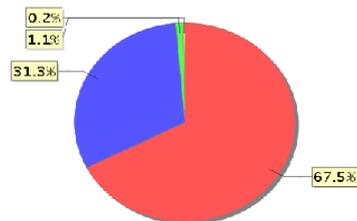
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

授業に意欲的に取り組みましたか



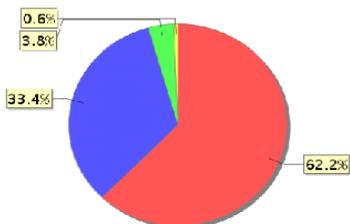
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

授業の内容は理解できましたか



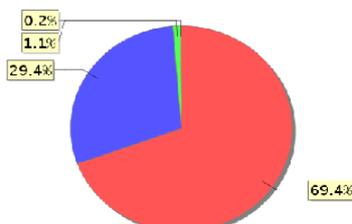
● しっかり理解できた ● だいたい理解できた
● あまり理解できなかった ● 全く理解できなかった

時間外での学修に意欲的に取り組みましたか



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

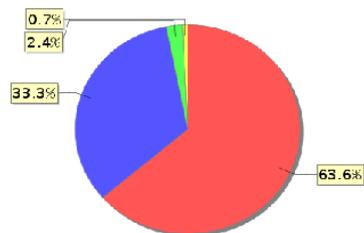
新しい知識や技能を修得できましたか



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

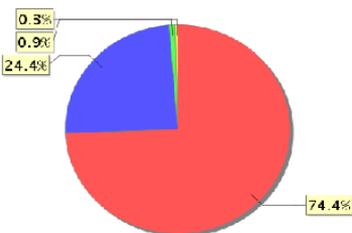
□ 授業評価の結果

授業内でシノプスの説明がありましたか



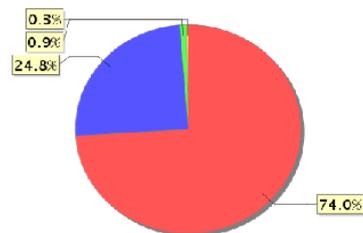
● くわしく説明があった ● だいたい説明があった
● あまり説明がなかった ● 全く説明がなかった

授業の開始・終了時間がどおりでしたか



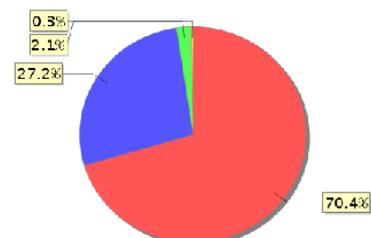
● いつも定刻どおりだった ● だいたい定刻どおりだった
● あまり定刻どおりではなかった ● 全く定刻どおりではなかった

集中するための環境は保たれていましたか



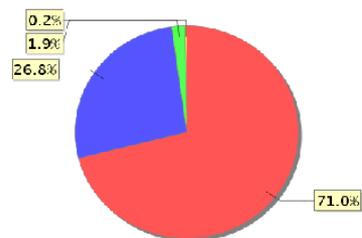
● しっかり保たれていた ● だいたい保たれていた
● あまり保たれていなかった ● 全く保たれていなかった

進捗やレベルについてどう感じましたか



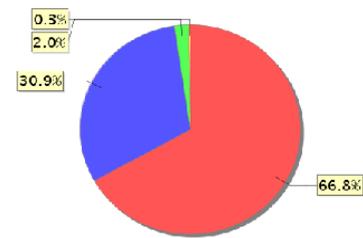
● ちょうどよかった ● だいたいよかった
● あまりよくなかった ● 全くよくなかった

授業の説明はわかりやすかったですか



● とてもわかりやすかった ● だいたいわかりやすかった
● あまりわからなかった ● 全くわからなかった

学生の意欲や理解を促す工夫はありましたか



● とても工夫されていた ● だいたい工夫されていた
● あまり工夫されていなかった ● 全く工夫されていなかった

<今回の結果からわかること>

1. 授業評価の実施について

今年度の前期に実施したとおり、後期の授業評価を実施しました。

- 講義系・実習系の授業を区別せず、全科目同様の質問項目で実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「時間外での学修に対する意欲」「授業内容の理解」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると90%を超えているなど肯定的な評価がほとんどであり、多くの学生が前向きに学生生活に取り組んでいることがわかりました。しかし、一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当てて分析すると、「関心・意欲・態度」を測る「授業中のマナー」と「授業への意欲的な取組」については70%を超えていますが、「時間外での学修への取組」については62.2%（前期59.5%）と低い結果となっています。さらに、「あまりできなかった」が3.8%（前期5.0%）、「全くできなかった」が0.6%（前期0.8%）と、前期に比べ若干の改善は見られるものの他の質問には見られない高い結果となっています。このことから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、時間外の学習への取組の改善が課題と考えられます。

また、「授業の内容理解」67.6%（前期64.3%）、「新しい技能の修得」69.4%（前期68.8%）の知識や技能に関する質問の回答は意欲に関する質問と比較するとやや低い結果となっています。次年度に向けてさらに充実した学生生活の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が90%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。しかし、自己評価の分析と同様に、それぞれの質問に対する最も高い評価の結果だけに着目するといくつかの課題が見えてきます。まず「授業の開始・終了時刻」と「集中するための環境」に関する質問についてはいずれも肯定的な評価が70%を超えており、多くの学生が授業を受ける環境に十分満足していることが窺えます。一方、「進捗やレベル」と「説明のわかりやすさ」については71.0%（前期68%）、「意欲や理解を促す工夫」については66.8%（前期65%）、さらに「シラバスの説明」については63.6%（前期62.9%）と、授業そのものに対する満足度は、環境に対する満足度と比較すると若干劣っている結果となっています。このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

後期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和4年度後期の学生による授業評価に対して、教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

専門科目

◆ 科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ 幼児と音楽表現Ⅰ（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業に関わった全教員が、学生のみなさんが理解しやすいように丁寧な言葉がけをするようにしている。そのことが評価につながり嬉しく思う。またコメントも沢山いただいたので、今後の励みにしていきたい。

2. 今後の授業における目標

この授業は資格取得に必須な科目であり、授業内容は概ね決められているが、出来る限り工夫を凝らしながら学習意欲が湧き、楽しく参加できる授業展開をしていきたい。そして、学修の進捗状況を常に把握をしながら進めていき、意見や質問をしやすい環境を整えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

演習の授業であり、欠席すると進度に影響したり、経験できないことが増えてしまいます。体調管理をしっかりして休まないようにしてください。

◆ 特別支援教育（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

結果を見させていただくと説明は分かりやすかったが、進度やレベルに少し満足いかなかったという評価であると受けとめたいと思います。できるだけ、内容の具体的なイメージができるようにと、映像や現場での体験や出会ってきた児童生徒の事例を示しながら授業を進めました。その内容が、学生が求めているニーズに物足りなかったのか、少し高めだったのか辺りを随時把握しながら進めていきたいと思っています。

2. 今後の授業における目標

障害児保育と特別支援教育という似たような分野がありますので、どのような学びの違いがあるのか、どのように学びを積み重ねていくのかを明確にして、授業担当と相談、連携しながら、来年度は進めていきたいと思っています。

3. 受講学生に対する要望

来年度は、障害児保育、特別支援教育の学ぶ内容の違いや積み重ねを感じられるような授業にしていきたいと思っています。知らなかった、学んで良かった、視野や考え方が広まったと感じられるように工夫していきたいと思います。みなさんの学んだ実感も把握しながら進めていきたいと思いますので、感じたことを伝えてください。

◆ 乳児保育Ⅱ（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

大変高い評価を頂けたことが素直に嬉しいです。毎年授業評価を受けている科目なので受講生の要望や評価点を参考に改善を重ねてきました。机上で学ぶ未満児の発達の姿をイメージしながら、子ども達と実際に遊ぶ時に使うことをかんがえながら、おもちゃづくりや絵本づくりの演習を行いました。どれも真剣に楽しみながら力をつけることができたなら幸いです。

教員の取組に対する評価についてもどの項目もよかったのですが、むしろ皆さんに向けてお話する楽しみやさらなる学びを頂いていたのは私の方ではないかと今さらながらに思っています。

毎回のコメントは、一人一人の思いを感じながら書いていました。大切に読んでいただいたことがわかり、感謝しています。AI化が進む中、私が大切にしたい手書きの振り返り用紙の価値をわかってもらえていることもうれしかったです。未満児へ寄り添う心、大人（保育士）との関わりや温もりは人が人になるための原点です。

乳児保育Ⅰから継続して後期の15回を楽しく関心を持って取り組んでいただけたことを幸せに思います。

2. 今後の授業における目標

0, 1, 2歳児の発達は目をみはる早さです。その一つひとつは人間の一生を決めてしまうほどの重要なもので、育て関わる大人はそうしたことを知ってはいなくてはなりません。学生のみなさんは実際に我が子を出産・育児する経験のある人はほとんどなく、それでも子育てをする知恵や知識を専門職として学んでいく必要があります。専門科目の力を幅広くつけて頂けるように応援しています。

3. 受講学生に対する要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるようにして頂ければと思います。

安全に対する配慮だけでなく、おおらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分の持っている力を信じて、自分自身によいイメージを持って授業に臨んでほしいと願っています。

◆ 保育内容「言葉」の指導法（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

最後の授業だったのですが、今年も新しいことに挑戦しました。その「言葉あそび」の内容はみなさんと一緒計画や実施についても考えることができ、私自身も楽しい時間になりました。

授業評価項目は、高評価だったので大変嬉しいです。テキストの事例を丁寧に読みながら幼児の「言葉」とは何か、保育者は何を指して言葉を聞き、話すのか、などについて理解を深めるよう努力したつもりです。

2. 今後の授業における目標

新しいことに常に挑戦する姿勢で授業に向かっていきたいと考えています。学生のみなさんの声を聞きながら、私の思いも伝えて、授業を作っていく姿勢を忘れないようにしたいです。

3. 受講学生に対する要望

幼児の言葉はまだ未熟です。でも身体いっぱい気持ちを表してもいます。言葉にならない言葉を聞く力をもって、話す言葉にはその深い意味を感じる寄り添う心を、自分自身の中に育ててほしいと思います。

◆ 保育内容「環境」の指導法（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期の「幼児と環境」の学修から更に演習を行い、学生の皆さんが実際に体験することで、テキストに書かれていることや講義で聞いたことを結び付けて保育環境について学びとってもらえたことがわかりました。しかし、理解度の評価が低いという点で講義でのわかりやすい説明やワークシートやコメントの評価の仕方、提示の仕方の工夫が必要だと思いました。

2. 今後の授業における目標

授業の目標を明確に提示し、テキストや資料から学ぶ内容と演習での学修内容の関連性がわかる授業展開を行えるようにします。また、気付いたことや学んだことなどを学生同士で確認し合えるグループワークを活発に行い、自己評価や自己課題が学生自身で明確にできるような授業展開をして授業の改善に心がけていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

子どもにとって人的環境である保育者の環境に関わる姿、感性が大きく影響します。様々なことにアンテナを張り、授業だけでなく、日々の生活の中でも興味関心をもって自ら関わろうとする保育者を目指して学びを深めてもらいたいと思います。

◆ 保育内容「健康」の指導法（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

全学及び学科の平均評価と同等の評価でした。評価の項目別にみるとシラバスに対する評価が低かったです。保育の現場での指導に役立つ学修内容に見直す必要があると感じています。また、授業後半のこども祭のあそびブースと横断的に実施した遊びの工夫の授業では、授業でのねらいが十分に伝わっていない、あるいは課題が難しいなど学修への取り組みにくさがあったと反省しています。

2. 今後の授業における目標

保育現場での幼児の健康づくりのための保育の内容を、保育現場で具体的に指導できる技術を身につけられる授業内容に見直したいと思っています。具体的には、日常生活での清潔習慣や運動習慣から、自由保育時間でのからだを使った遊び、行事等での子どもへの運動や表現などの具体的な場面を想定した指導の方法が学べるように授業で扱う内容を整理しまた学生自身が指導力を身につけられるよう授業の展開を工夫します。

3. 受講学生に対する要望

今後、保育実務研修等の現場で子どもたちと生活する機会において、幼児の健康づくりに意識を高くして子どもたちと触れ合ってほしいです。授業で学んだことを、体を動かす伝承遊びを子どもたちと一緒に体験したり、運動会のプログラムで演技種目を考えたり指導したりするときに役立ててほしいと願っています。また、こども祭の遊びのコーナーでは、みなさんが一生懸命考えた遊びの工夫や、当日の子どもたちが楽しくなるような言葉掛けや接し方により多くのはじける笑顔がありました。みなさん自身の指導力は確実に向上していますので、自信をもってください。

◆ 幼児と造形表現 I (幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

個人での制作とグループでの発表やグループワークでの制作など様々な種類の制作活動の体験から自分で学び工夫していけるよう授業を設定しました。今年度はこども祭で子ども達と一緒に作る制作が久しぶりにでき、実践からの学びは大きいと実感しました。今後は、より実践を想定し授業を構成したいと思います。

2. 今後の授業における目標

グループでの学びや制作を増やししながら個人の好みに向き合ったり、個人へのフィードバックを大切にしていける予定です。個人が自分の表現を探求できるような時間を増やしていきます。

3. 受講学生に対する要望

スライドでの説明をより視覚的にわかりやすくしつつ、話しを短めにして、たくさん制作の時間を作ろうと思います。聞くときは聞く作るときは作るのメリハリを大切にしつつ、一緒に授業を作っていきます。

◆ 子ども理解の理論及び方法（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

シラバスの取り組みに対しての評価が他項目より低かったため学生への丁寧な説明や授業計画に基づいた授業を心がけたい。評価から進捗と説明は適切であったと判断できるため、今後も継続したい。実際の保育事例から学べたという学生のコメントが多数であったため、今後も学生が自分の実践へと活かせるような保育事例を共有したい。一方で保育実践の視点に偏りを感じるという声もあったため、多様な保育観を基に、学生と共に様々な視点から考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

学生から学んだ内容を実習に活かせそうだとコメントがあった。そこからさらに、卒業後の保育実践に活かすことができるよう子ども理解と保育実践のつながりを学生が考えられるようにしたい。

3. 受講学生に対する要望

子どもに寄り添えるよう子ども理解を深めてくれた学生が多く、この調子で自分自身の学びを深め、目の前の子どもに伝えていける保育者を目指してもらえたらと思います。

◆ 保育・教職実践演習Ⅱ（幼3）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組み、授業の取り組みのすべての項目で平均より低く、結果を受け止めて改善に努めたい。主に学生同士の対話による演習で、事例カンファレンスと学びのまとめとしてのブレインストーミング形式での授業であったが、それでも授業中の教員の話の長さが改善点として挙がっていた。教員の説明をなるべく短縮しつつ、意味のある話のみに絞る必要があると感じる。また、その場で学生の話をもとめ、コメントするため、視覚的な情報を提示することが難しい場面もあった。そのため、視覚情報なしのコメントだけになり、余計に伝わりづらさを生んでいると考えられる。

2. 今後の授業における目標

学生主体の話し合いの場として定着できるようにするため、授業前の説明を短くし、学生の話し合いに時間が取れるようにする。また、その場での学生の意見を視覚的に共有できるよう工夫したい。授業時間外課題の自己の取り組みが著しく低いため、保育事例の事前記述などの適切な時間外課題を徹底する。

3. 受講学生に対する要望

保育実践との関連が強い科目であるため、事前にどの事例を挙げるのか、話合った事例をもとに次回の実践場面でどのように取り組むのかを考え、実際に取り組めるように一緒に頑張りましょう。

◆ 実習指導 I a (幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

実習に必要な知識を学べたという意見が多かった。また評価コメントから、園への電話や記録の取り方などに不安があることがよく伝わってきた。実習は事前準備の段階から、初めてで不安なことばかりである。実習指導の授業が実習に対しての不安を少しでも取り除く一助になっており、最低限の役割を果たせており良かった。

2. 今後の授業における目標

学生の不安解消だけでなく、もっと学生が実習を楽しみにできるような演習授業を取り組みたい。コロナの影響もあり、実習事務手続きだけでも多くの時間を取ってしまったが、確認事項は念入りに行いつつ、学生の実習への意欲を刺激できるような授業展開も考えたい。

3. 受講学生に対する要望

受講学生に実習を乗り切る力があるのは常日頃から感じていますが、重要な連絡事項や作成書類があるため、やむを得ない事情の欠席以外は、必ず出席しましょう。

◆ 障がい児保育 I (幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・学生一人一人の個性や学習スピードに合わせて授業を進めたことが、一人一人が主体的に授業に取り組む姿につながったと思われる。
- ・教科書や授業内容に合わせた事例（私の体験談やTVや新聞記事など）を話すなど、そのテーマに関心が持てるよう工夫したことが良かったようだ。
- ・ワークシートに書く時間をきちんと取ることで、安心して授業に取り組めたようだった。

2. 今後の授業における目標

- ・この科目は、法律や診断名など、学生にとって聞きなれない言葉が多く、中々主体的に取り組みにくい授業内容であることから、テーマに合わせたグループワークやディスカッション等を積極的に取り入れることで「自分の意見を伝える力が身に付く」「自主的に考え、行動する力が身に付く」「他者と協力して課題に取り組む力が身に付く」ということを意識したうえで、授業を工夫していきたい。

3. 受講学生に対する要望

- ・「子どもが好きだから、保育士になる！」というだけでは保育士になれないこと、専門性を身に付けてプロの保育士になれるよう頑張ってください。

◆ 子どもの食と栄養 (幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

理解度が低い評価でした。私の思い込みで今年度の学生は理解度が高いと感じていたため、より詳しい、難しい話をしてしまったのが理解できないまたは授業の早さについて行けない原因になってしまったのかもしれませんが。理解できていない学生のケアができていなかったことは反省しています。確認テストや課題プリントを提出の際、その都度感想や意見・要望を記入してもらいました。それにより今年度の授業の途中でも改善してきたつもりでしたが、来年度は要点をまとめた授業内容にしていきたいと思います。

2. 今後の授業における目標

栄養の専門家では理解できている用語でも、学生にとっては初めて聞く言葉であることを意識して授業を進めていきたいと思い、来年度はより分かりやすい教科書に変更しました。また、学生一人一人の理解度を確認しながら、今後は対話も交えて行いたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

栄養というとなんか難しいと思いますが、すべての人が毎日食事をしている身近なことです。子どもの栄養を学ぶのはもちろんですが、学生自身の健康のために学ぶ授業ですので、楽しく学べたらいいと思います。

授業中に理解できていないことはそのままにせず、分かるまで聞いてほしいと思います。

◆ 幼児と音楽表現Ⅲ（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

担当科目の授業評価は全学科、学科より平均を上回る評価がつき嬉しく思います。感染症対策をしながらの歌唱授業は手探りではありましたが、マスク、換気、間隔を保ち行い、学生の協力もあり無事に終わることができました。今後も、感染症対策をしながら、学生が意欲的に授業に参加できるような授業づくりを努めてまいります。

2. 今後の授業における目標

実技科目は各々の進度が異なり、学生一人一人に寄り添った授業づくりが必要です。今後も各々の進度に沿った授業を展開していきたい。

3. 受講学生に対する要望

実技においては、予習復習がとても大切です。目標を立て、意欲的に練習する習慣を付けましょう。

◆ 子どもの安全と健康（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

話すスピードやわかりやすい言葉を使うことに注意する。学生の理解が得られて授業が進められているか、興味をもって参加できているか、確認しながら進める。

2. 今後の授業における目標

受講生と双方向で意見交換しながら、学生参加型の授業を目指し、わかりやすい授業に心がける。

3. 受講学生に対する要望

学生が主体的に参加してほしい。予習・復習の習慣をもって、理解を深める取り組みを大切にしてほしい。

◆ 教育相談（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

各項目についての評価では授業時間に関する項目の得点が平均より低く、時間配分について今後見直す必要があることが分かった。ワークシートの記入や授業の最後の感想記入など、学生の取り組む姿勢を踏まえつつ個人差にも配慮して、必要な時間を予測して配分を考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

授業で扱う内容は全て学生に伝えたいものではあるが、特に身に付けてもらいたい知識や技術、知っておいてほしいことなど、比重を考えて提示するようにしたい。自然に定着して将来的に役立てられるような内容を重点を絞って提供していく。

3. 受講学生に対する要望

授業の前半で学んだピアヘルピングは、資格の有無にかかわらず今後の人生の中で公私ともに役立てていただける知識や技術です。時々思い出して使ってみてください。後半で取り上げた「絵本でできる教育相談」についても、今後実習などで実践し、自分のツールとして増やして行ってほしいです。

◆ 教職論（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

保育の目的や意義、専門職としての責務等を学ぶ科目であることを理解し、意欲的に取り組んだ学生が多かった。保育職としての責任や資質向上、連携などのキーワードを軸に深く学ぶことができたとの感想が多かった。法令や制度に関する資料や最新のニュース等を提示し、保育職として地域で活躍する自分をイメージしながら自己の考えをまとめ、活発に意見交流をした。時間外の課題では授業の復習から発展へと理解が深まるように積極的に学修に取り組んだ学生が多かった。授業時間や授業環境において高い評価を得られたが、学生の前向きな姿勢の成果の賜物と考えられる。

2. 今後の授業における目標

学修内容を深め、知識を定着させるために、学生自らが時間外学修の課題を設定できるように助言したい。また、授業を通して、必要なコミュニケーション能力や文章等の校正力を高められるように具体的な活動を取り入れたい。将来の保育職や幼児教育に関わる人材として、学生たちが互いに高め合える機会となる学修時間を目指したい。

3. 受講学生に対する要望

熱心に学修に取り組んでくれて嬉しいです。将来、保育職として、子どもの安全と保育を徹底して守れる技量を高めてほしい。そのためには、与えられた課題をまとめるだけでなく、自ら課題を見つけ解決するような活動に取り組んでほしい。

期限があるものについては、期限に出すことはもちろん大事です。まあいいやとならないようにスケジュール管理の工夫をしてみましょう。

【デザイン美術学科】

◆ 装飾体験（デ2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね好評価に思うが、授業時間の数字が低いのは、演習で一コマ区切りである1回の作業時間の短さにあると思う。

2. 今後の授業における目標

一コマ授業であることを踏まえ、説明・作業の時間配分を整えて臨みたい。

3. 受講学生に対する要望

素材と手法の違いの面白さを感じてほしい。

◆ ストーリーマンガ基礎（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

初めてマンガを制作する学生と経験者との混合された履修者が存在する科目であったためどうしても個別指導が中心となる授業であった。

そのため指導内容・進行についてはバラつきがある事、到達点のレベルを下げざるを得ない状況があった。

2. 今後の授業における目標

上記状態を打破するには学生の「小・中・高時代からのスキルの底上げ」がどうしても必要となるが現在の集客状態では如何ともし難いうえにこれ以上授業レベルを上げるのは非常に危険と感じる。やはり「幅広く理解可能な内容を繰り返し教える」事を軸に個別指導を継続する方向しかない。

3. 受講学生に対する要望

特に無し。現状それぞれがよくやっていると感じる。

◆ コミックイラストレーション基礎（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎年授業内容のマイナーチェンジを行っているが。やはり「あるレベル」から突破出来る学生とそうでない学生が明暗わかれてしまう傾向がある。

2. 今後の授業における目標

上記内容の改善を毎年心掛けているが、私の担当させて頂いている授業はいわゆる「暗記」や「方程式」を強いる一般的なお勉強とは違い「センス」「観察力」が必要とされる学問にあたる。この違いを学生に理解させるのはなかなか難しい上に望む者全員がプロになれる業界ではない。

残念だが一般に想像されるよりも遥かに狭き門であるため「本気で目指す者」と「そうでない者」への指導内容の差をどうやって埋めるかを今後も目標として一步一步進めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

特に無し。現状それぞれがよくやっていると感じる。

◆ 創作美術（デ2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

多能な学生の多様な表現や創作の在り方を支援したいと考えています。

没入感をもって、取り組んでいる学生には邪魔をしないことや、マインドセットが難しく「こうあるべき」に縛られて、つぎの一步がでないでいる学生とは、お話をしながら一緒に考えるなど、学生の状況により、適切な対応ができるように、ねらいと背景について、もう少し共有できればと感じました。

2. 今後の授業における目標

石粉粘土をベースに、色彩、造形、構成、素材の特性を活かした作品作りができればと考えています。小さな創作物ですが、豊かな世界が内包され、見る人、作る人に暖かなものが伝わるような作品が生まれる授業を目指したいです。

3. 受講学生に対する要望

手を使って、立体物を創造していく行為に、特別な思いがあります。制作を通じて、覚醒をしていただければとの期待もあります。

感覚、感性、感情を様々な素材と触れる中で刺激し、創作する楽しさを発見し、今後の制作に活かしていただければと思います。

◆ CGキャラクター (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

「学ぶ側から、提供する側へ」立ち位置が大きく変わる就職。

放課後の積極的制作が、就職を実現。

「個人差が大きい、制作ペース」一人ひとり、時間外努力。

わずかな授業時間。放課後の制作サポートを大切にしたい。

学生コメント例

「初めてやる作業でもミートなどをつかってわかりやすく簡単に教えていただき、苦手なところやわからないところをとことん突き詰めて教えてくれるのでわかりやすくて本当にありがたいなと思いました」

2. 今後の授業における目標

時間外学修の習慣がない場合、大きなハンディキャップとなる。

就職前、放課後5時間（1日あたり平均制作）専門誌掲載。

わかりやすい教材、制作資料「利用する、しない」差も広がる。

意欲的な学生の意識を、放課後の制作で、多くの学生に広げたい。

3. 受講学生に対する要望

「作らずにられない」

専門職へ到達する、学生の特長です。

これまで経験がない程、全力をつくして。

人気業界。夢を、近づけてみましょう。

◆ CGワーク (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

皆、クオリティを追求する、この時期。

目標と意識のバランスは、達成感につながる。

科目「CGキャラクター基礎、CGキャラクター、フィギュア表現」を経て、この授業へ到達。

2. 今後の授業における目標

放課後制作の習慣で、学生の制作力は高く上昇する。

放課後の制作サポートする時間を、大切にする。

3. 受講学生に対する要望

リモートにより自宅時間が増え、学生同士、互いの作る様子が見えず、差が大きく開くのを感じました。

「進捗の共有、桁違いの制作量」目標実現の要となります。

◆ 芸術計画概論（デ2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

現代アートやアーティストへの理解や関心は、かなり深めることができたと思います。

学生に対して授業に対する積極的な取り組みへの働きかけが、まだまだ不十分だと感じました。学生側の受け身の姿勢を改善するアプローチが不足していたと思います。

2. 今後の授業における目標

授業の中に学生がどんどん主体的に関われる部分を増やし、学生の積極性や興味関心の度合いをより高めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

様々な可能性を持った今を生きる若い学生として、安易な妥協はせずに積極的でより主体的に学ぶ姿勢や意志を大切にしてもらいたいと思います。

◆ 水彩画（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね評価値が円に近く、全ての設問において平均値よりはほぼ上の評価があり、良かった。水彩画基礎の意義を理解して、楽しく受講してくれて嬉しかった。

地道な作業を通じて、学生たちが基礎の力をつけた事を実感してくれたのが分かり良かった。

2. 今後の授業における目標

水彩画基礎なので単調な作業が続くため、到達目標を具体的に示して意欲を持たせる。

3. 受講学生に対する要望

なるべく学生の負担を減らしたいと学校で教材を用意しているけれど、自分の筆くらいは用意してもらいたい。

◆ 絵本、イラストレーションⅡ(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね評価値が円に近く、全ての設問において平均値よりはほぼ上の評価があり、良かった。
作品制作に加え、プレゼンテーションへも意欲的に取り組んでくれた。
何より学生たちが楽しんで受講してくれたのが嬉しかった。

2. 今後の授業における目標

作品作りに向けて事前準備などの教材をさらに工夫してゆく。

3. 受講学生に対する要望

オリジナル絵本制作に向けて、素材収集のためになるべく多くの絵本を手に取り、制作者の視点で分析してもらいたい。

◆ 美術総論 (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業を通して芸術作品に興味をもってくれる学生が多くてよかったと思う。また、授業後のコメントも踏み込んだ質問などをしてくれる学生が多く、教員自身も勉強になると同時に励みになった。一方で、配布プリントが多く印刷に時間がかかり、授業開始時刻が遅れてしまうことがあったので来年度からは気をつけたい。そして急な休講の場合は、早い時間に classroom を通して学生に連絡する等気を配りたい。

2. 今後の授業における目標

学生の質問に答えたり、授業で取り上げたりする等これまで以上に工夫をして、これからも学生に少しでも美術史に興味をもってもらえるような授業を行いたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

授業内容をメモしたり、興味のあることは自分で調べてみるなど自発的に学習を行ってください。

◆ CAD (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

理解度の再確認

2. 今後の授業における目標

全体の技量の底上げに配慮する

3. 受講学生に対する要望

慢心せずに向上心を

◆ マンガ学 (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

マンガの歴史的背景を説明することに時間を割きすぎて、マンガ作品の内容の深掘りが甘かった。学生が毎回提出する質問によって講義内容を変えることもあるので、シラバスと少し乖離が生まれてしまったことは否定できない。

2. 今後の授業における目標

マンガ作品の作品内容について詳しい説明を加えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学生からの質問にはすべて解答しているので、講義について何か不足に思う部分があれば、遠慮せずにコメントシートに記入してほしい。

◆ コミックイラストレーション基礎 (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

集中できる環境づくりに手掛け、全体の雰囲気に合わせて声かけ等を実施していました。

個人的にはあまり学生に対してアドバイス等が出来ていないと思っていましたが、授業自体が学生の自主性を持って進めていく性質のものでしたので、結果的に学生にとって良い効果が得られる結果だったのだと確認が出来ました。

2. 今後の授業における目標

学生の集中力を切らせないような声かけ・指摘をする必要性を感じました。

学生の学びたい内容に合わせて、授業を考えていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

授業を通して皆さんのイラスト制作の技術が上がったと感じることが出来ました。今後も作品制作に挑んでいってください。

◆ アートプロジェクトⅡ (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業自体の取り組みを意識してもらえた。

2. 今後の授業における目標

授業内での成果物を、授業外の方に見てもらおう機会を授業時間内により設けたい。

3. 受講学生に対する要望

熱心に取り組んでくれたと思います。

◆ つなぐデザイン (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

常にグループワークで行うというスタイルでもあり環境づくりから実際のデザインオフィスを想定していく事を説明した上で授業を進めてみましたが、学生によっては不便と感じてしまったため改善すべきとする点や授業時間外学修をもう少し与えて課題への取り組む姿勢をより前のめりにさせる工夫が必要と感じた点などがありました。

取り組む課題はよりリアリティのある内容に出来るよう実際の企業様にご協力をいただき行いました。そうした事で学生達もフィールドワークやオリエンテーションを肌で感じてもらえ、それが大きくプラスになったと感じてもらえた事が良かったです。

2. 今後の授業における目標

実際にある企業様の問題点をヒアリングしてみたり、学生達から問題点を想定して改善案をデザインしていくという流れが生まれるように事前の準備に時間を多く要してしまった、実際の仕事を想定しなかった割にはスピード感がまだまだ足りなかったという点がありました。

2年目はこういった鈍かった点を改善し学生にも現場の疾走感を体感してもらいながらもっと学生の長所を引き出せる進め方をしていきたいと考えています。

3. 受講学生に対する要望

環境づくりで不便に感じさせてしまった学生がいたというお声をいただきましたので環境づくりの見直しは早急に対策を取っていきます。

学生に向けた要望としては常に授業の中で実行してもらっていた1日1日のタスクを確実に完了させる期日の目標を立てられる事、その目標を達成出来る事、次の日の目標を立てて今日1日を終える事、それら一連の流れを確実に報連相する事を社会に出ていっても実行し続けていってください。

不明な点に関しては自分で考える、自分で調べる事も必要ですが、時間を無駄に浪費していくまでにはならない分岐点を常に意識出来るように先生はこのタイミングくらいになると声かけてきたよなというのを思い出してもらいながら社会での時間の使い方を意識していってください。みなさんの益々の成長を期待しております。

◆ グラフィックデザイン基礎（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

オンラインで授業を行うにあたり、特に意識したことは「対面授業以上に丁寧にフォローを行う」ことでした。

●講義

課題説明、講義資料はほぼ毎回準備し、説明内容が視覚的に伝わるようにしました。

全資料をクラスルームでいつでも閲覧できる形にし、制作中や復習、欠席した授業内容のフォローに活用できるようにしました。

デザインの授業なので、資料自体がデザインのお手本となるように楽しさや読みやすさを工夫した資料にしました。

実務でのワークフローや成果物を見せたり、この課題がどんな仕事に繋がるのかを説明し、課題から仕事に繋がる意識を持たせるようにしました。

●制作中のフォロー

個別対応で進捗確認を行い、一人一人の進行に合わせてアドバイスを行いました。

クラスルームより質問があった場合は、参考資料も合わせてできるだけ早くコメントを返すようにしました。

課題の中で達成してほしい目標を明確にし、個別で「ここまでは形にしよう」「ここはよくできている」を言葉で伝えるようにしました。

講義資料のおかげで、欠席した学生が出席した際のフォローを確実に行うことができました。

2. 今後の授業における目標

学生からの評価で「オンラインだけではわかりにくい点があった」とありました。

今後の授業では、教室に入ってください先生との連携を強化し、質問しやすい授業にしていきます。

また、就職後の業務においてオンラインでの連絡は必須になります。

その場にはいない相手に正確に情報を伝えるためのスキルを身に付けて欲しいです。

質問の仕方も指導していきます。

3. 受講学生に対する要望

オンライン授業で不便な点もあったと思いますが、課題毎に完成度が上がっており、成長を感じました。

- ・積極的に質問してほしい
- ・自分から身の回りのデザインを観察し、学ぶ姿勢を続けてほしい

【音楽総合学科】

◆ 卒業演奏Ⅱ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎年のことではあるが、シラバスの評価が低い。

個人レッスンでの授業のため、個々のレベル、進捗状況等によりシラバス通りに進む学生は皆無である。そこで次年度のシラバスは1週目の楽曲決め以降、2～15週は個々の進捗状況を考慮して進める旨を記した。

回答率が低いので、今後は指導を徹底。

2. 今後の授業における目標

学生によって進みたい進路がそれぞれであるため、目的意識を考慮した上でレッスン内容を満足度の高いものとした。

3. 受講学生に対する要望

個々の到達目標を見据え前期、後期の楽曲を決めて下さい。

◆ ポピュラー音楽史（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学外の取組の点数が高く、学生が課題に真剣に向き合ったことがわかり良かった。コメントで、プリントそのままの内容ではつまらないとあったので、改善していきたい。

2. 今後の授業における目標

学生の興味、関心を引き出せるような内容を工夫する。

3. 受講学生に対する要望

自分で調べる課題について、学生の中でも意欲に差があった。他の学生が行うよい取り組みは授業内で取り上げるので参考にしてください。

◆ 演奏会研究Ⅱ（音1）、Ⅳ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、授業時間外の準備学習や、復習学習に積極的な態度で取り組んでくれた学生に深く感謝したい。お互いの資料作りや、発表に於いて切磋琢磨し、回を追う毎に向上していく姿を確認できたことが何よりの喜びであった。演奏会研究Ⅳにおける目標の設定や、アドバイスの内容等に再考の余地があると思われる。

2. 今後の授業における目標

- ・優れたプレゼン資料や発表内容、技術について、学生同士の共有を促す。
- ・各発表後の評価、指導、確認テストの内容等について、更なる検討と改善を進める。
- ・鑑賞演奏会の対象について、その目的や学生への学修効果を鑑み決定する。

3. 受講学生に対する要望

卒業後、必要なコミュニケーションスキルや、プレゼンテーション能力等を身につける機会として、真摯に取り組み、積極的に活用して下さい。

◆ リペア特講（金管）（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

一人ひとりに実習物が与えられず、作業が済んだ学生が次に渡す方法の為に、出来てしまった学生に空時間が生じてしまったり、カリキュラムの進行が遅れがちになってしまった。

2. 今後の授業における目標

個々の作業をいくらか減らし、グループワークを多く取り入れていきたい。

3. 受講学生に対する要望

非常に興味を持って授業に臨んでくれ嬉しく思っています。

◆ 打楽器リペア演習（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

グループワークを多くし、グループ内で問題解決が出来たと思う。

2. 今後の授業における目標

台数に制限がある為、今後もグループワークを主に進めて行きたい。

3. 受講学生に対する要望

初めて触れる打楽器ばかりであるが、興味を持って授業に臨んでくれてうれしいです。

◆ リペア基礎(金管)Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期に比べ、内容も高度になってきています。より学生にわかりやすい授業内容を考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

実際に学生の前での実演回数を増やし、説明だけではない見せる授業も行っていく。

3. 受講学生に対する要望

2年次になるとより難易度も上がっていきます。技術を身に付ける為には、何度も繰り返し作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使い技術の定着をしてもらいたい。

◆ P・O r アンサンブル I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

実技系科目のシラバスの評価はいつもあまり良くない中、この科目では学科、全学よりも良い評価であった。この科目は非常勤講師とのオムニバス形式の授業のため、明確に授業計画ができ、学生にとっても、シラバス説明時に、授業内容や目標が分かりやすかったためではないかと思う。また、授業時間においては、各組のレッスン時間を正確に配分し進めていったことも評価に繋がったようである。アンサンブル演奏をすることが初めてであったり、経験が少ない学生が多いようであったが、授業の説明の評価も良かったことから、授業でのアドバイスや指導により、自由記述にもあったが、ソロとは違った新しい知識や技術を楽しく修得できたようである。全体的に概ね良い評価であったのではないかと思う。

2. 今後の授業における目標

次年度のシラバスは内容欄の表記の変更を試みたので、授業全体の流れや内容、目標等、学生にとってより分かりやすくなっていると良いが、今後も評価を踏まえながら、シラバスの作成・説明をしていきたいと思う。授業時間、時間配分、授業環境等は引き続き意識し、進捗やレベルも学生の状況を見ながら授業を進めていきたいと思う。知識・技術の修得とともに、アンサンブル演奏の楽しさを感じてもらえるよう、ていねいな指導を心がけていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学生の自己の取組に対する評価も概ね良かったが、時間外学修のみ低い評価であった。個々の練習は行っていると思うが、諸事情もあり、アンサンブルとして相手と一緒に合わせ練習をすることが少なかったためではないかと思う。次年度は、授業外でも可能な限り相手と合わせ練習をする時間を設け、アンサンブルとしての演奏を作り上げて行ってほしいと思う。

◆ 副科電子オルガンIV (音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

受講者皆さんが一生懸命学ぼうとしてくれる態度が伝わり嬉しかったです。一人ひとりの進捗状況を把握しながら指導をすることに心掛けて進めてきました。

シラバスについては進捗状況によって順番、内容を変更した場合の説明をしっかりと感ぜませんでした。

自由記述でのコメント、ありがとうございました。励みになります。

2. 今後の授業における目標

一生懸命学ぼうとしてくれる皆さんの気持ちを大切に、受講者皆さんの理解度、進捗状況を大切に授業を進めたい。

シラバスについては、わかりやすく説明をする、進捗状況によって内容や順番が変更する場合、しっかり説明したい。

3. 受講学生に対する要望

授業について（進行、進捗など）心配などあれば教えていただければと思います。

一緒に解決したいと思います。

◆ 電子オルガンキャリア実践Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期と後期を比較すると、改善されていて良かったです。

2. 今後の授業における目標

個々の能力に合わせて、無理なく技術を最高に伸ばすように、努力する事。

3. 受講学生に対する要望

計画を立てて、効率よく練習してほしいです。

◆ リペア応用（木管Ⅰ）B（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

担当の4科目全てにおいて、シラバスの項目がとても低かった。

木管Ⅰ・木管Ⅱ・金管Ⅰ・金管Ⅱは続きの授業となるので、なかなかシラバス通りには進められないが、スケジュールを学生にきちんと説明し理解してもらう必要があったと感じます。

2. 今後の授業における目標

前期の授業をもう少しゆっくり進め、学生が十分に理解し技術を身につけていけるようにスケジュールを改善します。

また、各々の自主課題の時間を多くとってしまった為、一部の学生がやる気を失い欠席も増えてしまったように感じます。最後まで学生が飽きないような授業内容と、雰囲気づくりを心掛けます。

3. 受講学生に対する要望

わからない、出来ないことがあれば積極的に質問をして下さい。

自主課題の時間では、自ら目標を立て有効に時間を活用し作業に取り組んで下さい。

◆ 鍵盤楽器Ⅱ（音1）・鍵盤楽器Ⅳ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期ガイダンスで個人レッスンでシラバスの通りには進めていくことは困難だからとシラバスの説明が不十分だったと反省し、後期授業の進め方等を再度説明し授業内容の理解を深めるように努めました。また、個人レッスンであるため一人ひとりが自ら進んで自主的に練習してもらえるように、課題をわかりやすく丁寧に伝えて理解しているかどうか確認しながらレッスンを進めていきました。

授業時間は、できるだけレッスン時間の均一を心がけるようにはしているつもりですがうまく区切りを付けられない時もあり学生たちを待たせてしまうことがあり申し訳なかったです。

2. 今後の授業における目標

練習している曲に対する的確なアドバイスができるように私自身も研鑽を積み続けることはもちろんですが、こちらが一方的にアドバイスをするだけでは学生一人一人の自分らしい音楽表現をつくりだすことにならないと思いますので、もっとコミュニケーションを取りながらどう表現して演奏したいか、どんな音色が出したいかなどを話し合い、レッスンを進めていくことができるよう今後の課題にしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

個人レッスンですので、自分のペースで練習を進めてください。

◆ 音楽療法演習（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

進度レベルと授業の説明において、不十分な点があった。

シラバスに関しては第1回目の授業において説明はしたつもりであったが、学生側の受け取り方には達していなかったことが分かった。

2. 今後の授業における目標

2コース選択制が増えたことによって、音楽療法コースのみの学生と2コース選択で免許取得が目的の学生との間に、実践力や音楽療法に対する根本的な考え方に差があることを強く感じた。免許取得は推奨したいが、音楽療法はある種の理念が必要なため、今後の授業では学生に「音楽で何をしたいのか」を問い正せるような授業の展開を考えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

こちらからの提案やアドバイスにそのままに乗っかるのではなく、自分自身の考えを用いて実践に臨めるような主体性を発揮してほしい。

◆ リペア基礎(木管)Ⅱ (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

「授業内でのシラバスの説明」「進捗やレベルについて」「授業の説明」「学生の意欲や理解を促す工夫」の項目の最高評価が7割を下回っていました。特に「進捗やレベルについて」と「授業の説明」は関連性が高く感じるため、授業内でより理解しやすく講義を進める方法について考えたいです。

2. 今後の授業における目標

より理解しやすい授業を通して学生の理解度向上を目指し、意欲向上につながるような授業をしていきたいと感じました。授業内容を再確認し、学生が行う作業についてより順序だてて具体的な指示が出せるように努めたいです。

3. 受講学生に対する要望

技術習得のためには実習に重点を置く必要があります。自分自身の感覚や知識をいかに育てるかが重要になってきますので、分からないことがあったら教員に質問し、理解度向上に努めてください。また、実践した内容は必ず振り返って、どのようにしたら満足のか、もし失敗があるならそれはなぜ起きたかを再確認するようにしてください。

◆ ピアノⅡ (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

分かりやすい説明、模範演奏、他人の演奏を聴くなどで少しずつ進歩したと思います。

2. 今後の授業における目標

良い成績が取れるようにしたいのはもちろんですが、焦らず力量に応じた指導をしていきたいと思えます。

3. 受講学生に対する要望

毎日の練習を無駄なく、効率よくすること。何時間でも練習することを望みます。

◆ ピアノ応用実践Ⅳ (音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生に、授業に対する意欲が感じられたので、こちらとしてもそれにこたえる授業になったと思います

2. 今後の授業における目標

その意欲が持続するように指導していきたい

3. 受講学生に対する要望

とにかく練習あるのみ

◆ 和声法Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

環境、説明で、4・0の満点評価を頂き、嬉しく思いました。

2. 今後の授業における目標

高評価を頂ける事は、毎時間の真摯な説明、授業準備の結果だと思うので、今年も、維持していきたいと思えます。

3. 受講学生に対する要望

毎回、配布するプリントは、しっかりと理解して頂きたいと思えます。

◆ 音楽史Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回、準備を万全にした事が、良かったと思えます。

2. 今後の授業における目標

落ちこぼれるてしまう学生が、居ないようにきめ細やかな指導を心掛けたい。

3. 受講学生に対する要望

課題に、きちんと、取り組んで欲しいです。

【歯科衛生学科】

◆ 診療補助応用Ⅲ（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

臨床実習に出向する直前の学生に対して歯科診療所や病院歯科の現場で頻用される検査・器具につい

での講義を行っています。検査・器具の講義に加えて臨床現場の雰囲気・規律・態度に関しても授業を行っています。臨床現場では「患者ファースト」であることを自覚するよう伝えていますが、この点に関してさらなる努力と工夫が必要と考えています。

2. 今後の授業における目標

上記に記載した臨床実習で頻用される検査・器具についての講義をより一層分かりやすく、現場に則した、学生の興味をそそるものに進化させていきたいと考えています。また医療現場の態度・倫理についても丁寧に指導していきます。

3. 受講学生に対する要望

臨床実習への出向直前に行われる実践的授業であることを自覚してください。また「患者ファースト」の医療倫理を再確認して授業に臨んでください。

◆ 歯科総合演習Ⅱ（歯3）

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価人数が少ない、評価の自由記載が皆無、などの点を検討する必要がある。

2. 今後の授業における目標

1年目であったため、授業スライド作りに追われた。次年度はブラッシュアップしながらより良い内容としたい。

3. 受講学生に対する要望

この授業は出席するだけでは何の意味もありません。自ら手を動かし勉強することで結果が出ます。わからないところを放置することなく、積極的に質問して下さい。

◆ 歯科放射線学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生にとって初めて触れる専門の内容であるにもかかわらず、授業内容や配布資料がわかりやすいという評価がいただけた。授業に際し、

1) 重要事項を明快に示した理解しやすく勉強に取り組みやすい配布資料を心がけた。また、学習内容の理解と興味を促すため、カラーの図や写真も多く取り入れるようにした。

2) 情報を整理して提供する。特に、要約を重視し、何を知ればわかったことになるのかを意識させるようにする。

3) 国家試験対策を授業に取り入れる。

4) 授業の度に復習テストや質問形式で重要事項の復習をし、繰り返しの習慣化を目指す。

5)「褒めて育てる」の精神で励ましの言葉がけなどを行い、学生のやる気を促すようにした。ということを中心とした。

多くの学生が自由記載欄に記入しており、それらすべて上記のことを非常に好意的に受け取っていることがうかがえる内容であった。

2. 今後の授業における目標

自己の取り組みに対する評価、および教員の取り組みに対する評価のいずれにおいても全ての項目について学科平均を上回る評価がいただけた。5項目のうち「説明」の点が最も高かった。

明快な授業を心掛けたことで、多くの学生から、「短い説明で分かりやすくまとめて下さったので覚えやすかった」、「授業の時に大事なところを先生と一緒に何度も確認してテストに臨めたのが良かった」、「国家試験によく出るところを特に教えてくれるのが良い」といった感想をいただいた。改めて、学生に「これならできる」と思わせるような教員側の創意工夫の大切さを学生から学ぶことができた。今後も学生に喜ばれる授業を心掛けたい。内容をより分かりやすく提示するよう改善する。

3. 受講学生に対する要望

- 1) 真面目に授業に取り組む。
- 2) 習った内容をできるだけ早い時期（できれば1日後）に目を通す。
- 3) キーワードや重要事項を覚える。それによって、その科目を理解し攻略していく上での柱を作る。配布資料では太字や赤などで協調しているの、よく目を通すこと。
- 4) 勉強する上での最強の方法は「要約」です。「要約」とは、「わかりやすく、かつ少ない文字数でまとめる」ということ。要約をすれば、「いったい何を理解すれば、その話がわかったことになるのか（これを「本質」と言う）」がわかる。学ぶべきことについて、「一言でいうとどういうことなのか」を意識して勉強すると良いです。
- 5) 覚えるべき内容について、「なぜこうなるのか」を理解すると、記憶が効率的になる。しかも記憶が長持ちする。知識と知識を「なぜ」で結びつけて覚えるようにしましょう。

◆ 小児歯科学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生にとって初めて触れる専門の内容であるにもかかわらず、授業内容や配布資料がわかりやすいという評価がいただけた。授業に際し、

- 1) 重要事項を明快に示した理解しやすく勉強に取り組みやすい配布資料を心がけた。また、学習内容の理解と興味を促すため、カラーの図や写真も多く取り入れるようにした。
- 2) 情報を整理して提供する。特に、要約を重視し、何を知ればわかったことになるのかを意識させるようにする。
- 3) 国家試験対策を授業に取り入れる。
- 4) 授業の度に復習テストや質問形式で重要事項の復習をし、繰り返しの習慣化を目指す。
- 5)「褒めて育てる」の精神で励ましの言葉がけなどを行い、学生のやる気を促すようにした。

ということを心がけた。

多くの学生が自由記載欄に記入しており、それらすべて上記のことを非常に好意的に受け取っていることがうかがえる内容であった。

2. 今後の授業における目標

自己の取り組みに対する評価、および教員の取り組みに対する評価のいずれにおいても全ての項目について学科平均を上回る評価がいただけた。5項目のうち「説明」の点が最も高かった。

明快な授業を心掛けたことで、多くの学生から、「簡単にわかりやすくまとめて下さったのでわかりやすかった」、「大切なところを赤文字にしたり、国試に出てくる箇所やおさえるところを知れたりしてよかった」、「楽しかった」といった感想をいただいた。

改めて、学生に「これならできる」と思わせるような教員側の創意工夫の大切さを学生から学ぶことができた。今後も学生に喜ばれる授業を心掛けたい。内容をより分かりやすく提示するよう改善する。

3. 受講学生に対する要望

- 1) 真面目に授業に取り組む。
- 2) 習った内容をできるだけ早い時期（できれば1日後）に目を通す。
- 3) キーワードや重要事項を覚える。それによって、その科目を理解し攻略していく上での柱を作る。配布資料では太字や赤などで協調しているので、よく目を通すこと。
- 4) 勉強する上での最強の方法は「要約」です。「要約」とは、「わかりやすく、かつ少ない文字数でまとめる」ということ。要約をすれば、「いったい何を理解すれば、その話がわかったことになるのか（これを「本質」と言う）」がわかる。学ぶべきことについて、「一言でいうとどういうことなのか」を意識して勉強すると良いです。
- 5) 覚えるべき内容について、「なぜこうなるのか」を理解すると、記憶が効率的になる。しかも記憶が長持ちする。知識と知識を「なぜ」で結びつけて覚えるようにしましょう。

◆ コミュニケーション演習（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

今回も学生主体の取り組みが実施出来、また前回よりも取り上げる内容をブラッシュアップすることが出来た。

2. 今後の授業における目標

今回は、再度の内容確認と学生主体の取り組み方法について検討し、良い評価を得られるようにしたい。

3. 受講学生に対する要望

日々生活する上でコミュニケーションは必要なものでありますが、今回の受講内容を各場面での適切なコミュニケーションの選択の一助として下さい。

◆ 栄養生化学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

生化学と栄養学の両方を取り上げないとならない点が苦心したが、学生主体の取り組みを行うことで重要ポイントを押さえることが出来た。

2. 今後の授業における目標

調べ学習のテーマを再度ブラッシュアップして、医療従事者としての効果的な学びに繋げたい。

3. 受講学生に対する要望

生物は何らかの栄養を摂取しないと生きていけません。そして医療従事者は業務上、栄養の代謝をはじめ生命現象を科学的にとらえる必要があります。難しい所もありますが、今後も科学的な視点を忘れないようにしましょう！

◆ 発達口腔保健学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

妊産婦～幼児期までの一般的特徴や口腔の特徴を理解しやすいよう、実例を交えた講義を行いました。また、1年生の科目ですので、楽しく分かりやすく学習できるように心がけました。

「面白かった」「わかりやすかった」とのコメントをいただきましたので、今後もより良い授業になるよう努力していきたいと思います。

2. 今後の授業における目標

「授業で改善したほうが良いところ」に「授業のスピードが少し早かった」「課題提出の時間が授業内に少なかった」という回答がありました。

今後は、より要点をしぼった授業内容とし、授業進度を工夫していきたいと思います。

課題に関しては、授業内で実施できるような内容とすることなども検討したいと思います。

3. 受講学生に対する要望

本科目は2年生3年生とつながっていく科目です。国家試験にもよく出題される場所ですので、引き続き興味を持って学習してもらいたいと思います。

これからは科目数も増え、覚えなければならないことも増えてきます。毎日勉強する習慣を身につけてください。

◆ 診療補助応用Ⅳ（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に平均より低い評価となってしまった。実習項目も多く、診療補助として、臨床実習で今後実践するための実習内容でもあるため、1. 2年生でやってきた応用でもある。この内容のコメントも、個人差があるところもあると思うが、復習が十分できていないと、難しいないよでもあるため、今後、再度復習を入れながら実習を考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

1. 2年生で学んことを実践し、その結果を分析する実習でもある。項目も多様なこともあり、時間的に余裕がない実習になってしまったこともある。コメントにもある、ゆっくりやって欲しい要望もあった。今後、実習の組合せを考え、実習内容を分かり易く、また、実習し易い環境に変えて行けるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

診療補助応用でもあるため、事前に出す予習課題は、復習も兼ねているため理解して取り組んで行って欲しい。実際に現場では、短時間で行う操作もあるため、事前に復習は必要である。単元毎に終わった後の課題は、一層内容を理解するためには必要な事のため、丁寧に行っていただきたい。知識、技術を向上させるためにもお願いしたい。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

覚えてほしいことはかなり強調し伝えていたので、学生の評価で「わかりやすかった」とあり伝わっていたことがわかった。今後も学生に合わせ進めていきたい。

実習の際、しっかり修得してもらうために2グループの少人数に分け行った。そのため、できていないところを指摘することができたが、聞きづらい学生もいたようだ。一人一人見ていたが、できていない場合はもちろんできている学生にも声を掛けられるとよかった。

2. 今後の授業における目標

実技は、すぐにできるものではなくやはり何回か繰り返し上達していくものなので、自主的に練習できる学生は少ないため、授業の中で繰り返しつつ修得できるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

マネキンで練習をし、相互実習にうつるが時間に限りがあるため練習時間は授業外でも行ってほしい。

◆ う蝕予防処置法Ⅰ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

初めて主として講義を担当し、分かりやすい授業を意識し心掛けました。「自己の取組に対する評価」、「授業の取組に対する評価ともに概ね良い評価」共に概ね良い評価をいただき、今後も続けていこうと思います。アンケートを試験直前に行ったため、回答率が 90.2%と全員回答に至らなかった点は次年度以降、改善していきます。

2. 今後の授業における目標

配布資料の穴埋め部分を学生のタイミングに合わせるため、ppt のアニメーションではなく PDF に直接書き込んだが、それが返って読みづらいと感じさせてしまった点は改善していきます。

また、常に学生目線を持ち、少しでも興味を持ってもらえるような説明の仕方や、分かりやすさを工夫した授業進行を心掛けていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

時間は有限です。ご自身の大切な時間ですからメリハリをつけて授業に臨みましょう。

◆ 保健指導法Ⅰ（歯Ⅰ）

1. 授業評価の結果に対するコメント

スライドや配布資料について「わかりやすかった」という意見が多かった。スライドや配布資料については、毎年学生に合わせて「専門用語にを分かりやすく説明する」、「図や写真を取り入れる」、「テキストと配布資料、スライドのつながり」などを考え修正している。また、授業の中で「前回の授業内容の復習」を行うことを意識した。その結果、学生自身が積極的に学修に取り組むことができたことでこのような評価につながったと考える。授業中は、教室内をまわり学生一人ひとりに声をかけ、学修の進捗を見ながら授業を展開することができた。

昨年もこの授業を担当しているが、「前期の授業からのつながり」や「歯科衛生士の役割」などを学生に感じ取ってもらえたことは昨年までと大きく変化しているところである。

2. 今後の授業における目標

より学生の理解が深まるよう、授業内で使用するスライドや配布プリントを工夫する。また、歯科衛生士としての役割や目標を感じ取ってもらえるような授業にできるよう改善する。

3. 受講学生に対する要望

学生の皆さんの反応を見ながら、授業の進捗を考えています。わからないことなどがあれば積極的に発言してください。

◆ 診療補助基礎Ⅱ（歯Ⅰ）

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・前期に引き続き、自己の取組に対する評価の「マナー」の評価で3.8と高い数字でした。2年生に進級すると臨床臨地実習も始まるので、引き続き身だしなみ・時間・期限などを意識してほしいです。
- ・印象採得についての筆記試験・実技試験を行いました。実技試験は練習を重ねなければ上達しません。授業内でも相互実習・実技試験にむけて練習をしたり。動画を活用し、自宅でも正しい手技を確認できるようにしました。再生回数も伸び、学生が動画を活用してくれているのを実感しました。今後もICTを活用し学校外でも学習に取り組める環境を作りたいです。
- ・今回、1年生では初めてとなるエックス線の実習を行いました。同時期に開講されている歯科放射線学の授業の確認として、実際に器機を見て、触って、体験することで学生からも「これがこの器械か」などの声を聞くことができました。ですが、1年生の後期なのであまり内容を詰め込みすぎないように注意したいです。

2. 今後の授業における目標

- ・できるだけ臨床につながる授業を行います。
- ・実習では、「なぜ上手くいかないのか」、「なぜ上手くいったのか」学生が考えながら実習ができるよう指導します。
- ・担当教員が多い科目なので、一人一人に細かく指導できるよう全体を見て授業を実施します。

3. 受講学生に対する要望

- ・身だしなみ、時間・期限を守りましょう。
- ・相互実習は緊張感をもって行いましょう。
- ・教員の話をしっかり聞きましょう。自分で判断できない場合は、必ず教員に確認してください。
- ・メモを取る癖をつけましょう。

◆ 衛生行政・社会福祉学（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

平均よりやや下回っているようである。平均に近づくよう授業のやり方等検討したい。

2. 今後の授業における目標

出来るだけわかりやすい資料の作成をしたい。

3. 受講学生に対する要望

他の授業の宿題をやったり、眠りにつく学生が散見される。一方真剣に授業を受けている学生もいる。当該科目は学生にとって身近に思えないかもしれないが必ず生かされるものと思うので真摯な受講態度をお願いしたい。

◆ 口腔衛生学Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

わかりやすい、面白かったなどの良い評価を受けて嬉しいです。

2. 今後の授業における目標

評価の良いところを維持またはさらなる向上を目指しつつ、改善点で説明が早くてよくわからない時があるという意見もありましたので、早くならないよう心がけていきたい。

3. 受講学生に対する要望

話を投げかけた時や質問などした時に、頷く、首を振るなどの反応をしてもらえると良いですね。

教養科目

◆ スポーツ演習Ⅱ（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんがスポーツに意欲的に取り組んでいたことをうれしく思います。運動が得意な学生も苦手な学生もまた所属する学科が違う学生とも互いに励まし合い、助け合いながらスポーツに取り組んでいる姿が多くみられ心が温くなる思いがしました。とはいえ、前期のスポーツ演習Ⅰから継続して受講する学生の割合が多く、後期から受講した学生にとって仲間関係の構築に苦慮している学生もいたように感じます。もっと配慮すべきだったと反省しています。

2. 今後の授業における目標

後期は、学科内での仲間関係が確立してくるため、仲の良い子が集まる傾向がありますが、スポーツに取り組む学科を超えたグループ内でよりよい人間関係を構築できるよう、授業導入段階でのアイスブレイキングを充実させた授業を展開し、コミュニケーションが広がるようにします。

3. 受講学生に対する要望

運動は健康増進・維持のためのとても重要な要素です。大人になると集団で運動をする機会がほとんどなくなりますので、意図的に友だちや家族を誘って楽しく運動に取り組んでみてください。また日常生活では、例えば階段を積極的に使う、腕を振って大股で歩いてみるなど運動量の確保に努めてください。さらに、将来子育てに関わる機会があった時は、子どもと一緒にからだを使って楽しく遊び、健康な体づくりに心がけて欲しいと願っています。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

多種多様な内容を学べる授業であり、いろいろな保育者・教員の話や、他学科との交流を交流を学べると学生が感じられたように思う。毎回テーマが異なるため、事前にどのような視点で学んでほしいか説明するようにしたが、思った以上に学生は理解をしてくれていたように感じる。

2. 今後の授業における目標

キャリアを学べる時間として、社会人になった際に役立つ様々なスキルや考え方をさらに伝えたい。

3. 受講学生に対する要望

学生の中に学びたい、身に付けたい社会人スキルやマナーなどあれば教えてください。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生自身の取組評価において、時間外学修の評価が低いのは、毎回の内容が違うため、予習がしにくいといったことが、挙げられるのではないかと思います。授業の取組に対する評価に於いても、同じことが言える気がする。

2. 今後の授業における目標

上の設問につながるが、シラバスにあるからいいということだけでなく、事前に簡単にでも内容を伝えることで、受講する姿勢も変わってくると思うので、そこを意識したい。

3. 受講学生に対する要望

毎回違う内容には、戸惑いもあるかもしれないが、受け身でなく前向きに受講することで、得られるものが増えると思うので、ぜひそうした姿勢を心がけてほしい。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述では、社会人になるにあたって大切な教育内容であったとのコメントが多く、個々人で学んだ内容と向き合い、価値ある行為であったと、位置づけできている学生がいることは、学修成果の現れと感じた。シラバスの評価点が低いので、導入部分の説明を強化する必要性を感じました。

2. 今後の授業における目標

自己の取組に対する評価の時間学修の少なさが気になりました。

学生は、日々授業の中で専門教育を受け、多くの課題に懸命に向かっている姿を見えています。この時間

に、もっと講義や他の演習で学んだことを意識してもらえるような指導が必要と感じました。

3. 受講学生に対する要望

デザイン美術学科の教育は、アクティブラーニングにあふれています。

講義科目では、受け身になりやすい授業構造ではありますが、日常や専門教育、特に演習においては、自ら「目的」や「目的」の設定が可能です。学んだ職業観に立脚して、新たな価値創出を巡らしてみたいかがでしょうか。

◆ 音楽療法入門（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

おおむね好評であり、幅広く音楽療法に対する興味、関心を引き出すことができていると思っている。

2. 今後の授業における目標

常に改善を心掛け、学生が自分の立場から感じることのできる内容を考えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

私語がある学生にはその都度注意をしています。人数が多い授業なので他の学生の学びの妨げになることは避けてください。

◆ 国語表現（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、「マナー」や「意欲」などの得点が高く、真摯な態度で取り組んでくれた学生にまずは感謝したい。「授業の取り組みにおける評価」では、各教科「進度レベル」「説明」において問題があった。「進捗の速さ」と「説明のわかりやすさ」が問題だと考えられるので、来年度に向けて改善していきたい。

また、「課題が多い」という指摘を受け、知識や技術の定着を求めるものとはいえ、学生諸君の複数の声には耳を傾け、適正な課題量になるよう見直しを検討していきたい。

2. 今後の授業における目標

- ・ 社会人・職業人に必要な言語能力、表現力を身に付けてもらうための具体的教材内容を精査する。
- ・ 学修進度や課題分量についての再検討。

3. 受講学生に対する要望

知識の定着は反復学習することが肝要です。分からない内容があるときは、積極的に質問して下さい。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

今後も就職活動に役に立つ内容を精査しより身に付く講義内容にしていきたい。

2. 今後の授業における目標

配布資料やパワーポイントの効果的な活用法を考えていく。

3. 受講学生に対する要望

1年次ですが就職活動の準備をしっかりと行い、2年次の就職活動に役立たせてください。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

オムニバス授業の良さが反映されている結果となった。出席管理に QR コードを用いたが、概ね好評であった。

2. 今後の授業における目標

スーツ着用について改善を求める意見が複数あることを踏まえ、今後の検討課題としたい。

3. 受講学生に対する要望

概ね良好であったが、ディスカッションでは積極性に欠ける場面が多くみられた。受け身ではなく自ら積極的に学修してほしい。

◆ 心理学(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目に対する評価も高く、自由記述の記載からも学生にとって得るものの多い授業であったことが窺える。誰にとっても身近な学問である心理学の面白さや奥深さを多くの学生が知り、周囲の環境の捉え方や他者理解の視点などに活かされたようであり、今後に役立つものとなった。動画や Slido の適切な使用で「学ぶ楽しさ」を伝えられたのは今後の専門科目での学修意欲にも繋がるものと思われる。

2. 今後の授業における目標

学生との双方向性をさらに高められるよう学生同士の直接的な関わりを今後増やすとともに、ICT を活用し、交流を深めたりフィードバックをしたりして学生と一緒に授業を創っていきける仕組みを作りたい。4学科学生が受講する教養科目ならではの交流のある自由度の高い授業を実現させたい。

3. 受講学生に対する要望

受講生のみなさんが自分自身の体験や心情に照らし合わせながら聞いてくれたので、この授業をより楽しんでいただけたのではないかと思います。この先の日常生活の中でも授業で得た知識を時々思い出して、気になったことはさらに調べてみてください。

◆ 子ども学入門（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

子どもはかけがえのない人間として尊ばれる存在であり、その誕生や成長を喜び合うことの素晴らしさを感じてほしいという思いをもち授業を進めた。資料の提示や児童玩具の製作、時間外学修課題を通して、自己の育ちを振り返ったり、将来を想像したりすることで、子どもの発達や特性などの知識、具体的な関わり方について、学びを深めてくれたと感じている。今後社会の一員として、学んだことを生かし子どもと望ましい関わりをしていきたいとの感想が多く担当者として喜ぶたい。

2. 今後の授業における目標

学修内容の精選を行い、配付資料やスライドのわかりやすさに努めたい。また、学生が思考したことを意見交流する場面を増やし、学びの深化を促すよう努めたい。

3. 受講学生に対する要望

この授業を通して、子どもは人との関わりを通して育つことや子どもとともに大人が育つことなど、保育や子育ては人間の大切な営みであるとの理解を深めてくれて嬉しく思います。大人として尊厳をもって上手に子どもに関わること、さらには将来の生活設計の中で家族をもち、豊かな人生を創造してくれることを願っています。

◆ 情報活用（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期情報科学（教養）の応用の内容として授業を進めてきたが、前期科目の情報科学で身に付けた力を活かして演習に意欲的に取り組む姿があった。課題や情報セキュリティテストへも真面目に取り組む学生が多く、良い授業評価を得られることができた。

2. 今後の授業における目標

一人一人の学修の進み具合を見ながら、演習課題の内容や資料の準備でさらに工夫改善をしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

演習課題の進み具合で、よくわからないときやうまく結果が導き出せないときなど、担当教員や周りの仲間に積極的に質問するなどして、課題解決ができる力を身に付けてほしいと思います。

◆ 外国語コミュニケーションⅡ（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・ 学生が「良かった」と感じた以下の点を今後も継続していきたい。

「授業方法について良かったこと」は、①時間をかけてテキストの理解ができたこと、②繰り返し音読したこと、③説明が細かくてわかりやすかったこと、④スクリーンが見やすかったこと、⑤授業環境がしっかり保たれていたこと、⑥小テストでこまめに復習ができたこと。

- ・ 一方「授業で改善した方が良いところ」は「授業を時間通りに終了してほしかった」と「授業の流れを一定にすること」の2点であった。この意見は4クラスの最初の授業に当たっていたクラスの学生から出されたものであった。その原因は、ユニットごとにテキストの分量も難易度も異なるため、進め方に微妙な調整が必要とされるが、その調整を最初の授業で行っていたため、当該クラスでは時間が足りなくなり、演習を割愛するといった場面もあったからであろう。当該クラスの授業評価が、最も意欲的なクラスであったにも関わらず、他クラスと比較して低かった原因でもあると考えられる。

2. 今後の授業における目標

- ・ 画像や資料の追加により、パワーポイント教材の充実を図り、授業の魅力を高めたい。
- ・ 各ユニットの最初の授業が、お試しの授業にならないよう注意したい。

3. 受講学生に対する要望

・ 素晴らしい教材が無料で手に入る時代です。それを生かして、卒業後も、英語の勉強を続けてください。この授業がそのきっかけになったとしたら、これ以上の喜びはありません。

◆ 暮らしの科学（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の取組に対する評価は、10項目中ほぼすべての項目において全学及び学科の平均より高い数値(10項目中、学科平均のシラバスの評価のみ0.006低かった)であった。

自由記述欄においては、「新しい知識やためになる情報をいっぱい知れた。」「とてもわかりやすい授業でした。」「これからの生活に活かしていきたいなと思いました。」「化学が使われているたくさんの物や食べ物を知ることができ、これからの生活に役立てていけるなと感じたので受講してよかったと思う。」など授業の趣旨をよく理解してくれた。改善点は特にないようなので今後もさらに更新してよい授業としたい。

2. 今後の授業における目標

教科書に完全に対応したスライドを用いて講義をしており目で見て実生活に関わる様々な事項を理解してもらいたいと思っている。科学的視点で日常生活の様々な出来事を知ることによって豊かで安全な生活を送れるよう今後も教授するとともに彼らがその伝道者になってほしいと思っている。

今後電気自動車が普及する根拠は何かとか石油など化石燃料の枯渇やマイクロプラスチック問題や環境問題など現代科学の進展に合わせ、毎年、最新の内容に更新したり追加したりしている。今後も卒業後、長期的な視点で生活力があり生き抜いていける学生さんを輩出できるよう講義内容の精査を進めていく予定である。

3. 受講学生に対する要望

日常生活に関わる 衣 食 住 すべてが生活そのもの、人生そのものである。日々の生活を豊かにするためにも日々の生活の中で起こる出来事や電化製品や日用品、食糧などの本質や原理や現象を科学的な視点で見つめ理解することができる素養を培ってほしい。そんな原理などを理解しようとする姿勢が培えれば自分の周りの人々を巻き込んでより豊かな日常生活を送れるようになるはずだ。

なんとなくぼーっと日々の生活を見過ごすのではなく何事にも興味をもって「なんでなんだろう?」「どうなっているんだろう?」とちょっと考える姿勢を持つだけで「ちょっと調べてみよう」「相談してみよう」という行動につながりより有機的な好循環を生む人の輪ができてくると思うのでいろいろな人を巻き込んでポジティブな日々を送れるようになってほしい。

◆ 美術入門（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

受講学生に対し、授業内容の量が多く進め方も早い点が課題としてあげられる。授業の第1回から学生の意見を集約し、適切な分量とスピードになるよう配慮したが、まだまだ改善の余地があると感じた。授業内容の質については、新しい知見や鑑賞方法の修得など、多くの学生が興味関心を持ち知的好奇心を満たし、教養として今後にも活用したいと感じたようである。学習到達目標はこのままで、より教材を精選しさらに心に響かせ興味関心を喚起させるよう工夫したい。

2. 今後の授業における目標

- ・学生の特質を十分考慮し、適切な学習量と進度、学生に適した教材の提供に努める。
- ・学生が積極的に参加しやすいアクティブラーニングの方法と双方向授業の研究と実践。
- ・より魅力的な教材と観点、トピック、展開方法の研究と実践。
- ・演習及び振り返り学習の充実を促すため、観点別評価の見直しと働きかけを行う。
- ・時間外での学修に取り組みやすい情報の提供（展覧会情報やメディアの情報）を行う。

3. 受講学生に対する要望

- ・授業内での反応や発言が積極的に出来ると良い。
- ・演習（振り返り）については、課題の意図をよく理解して、徐々に深まったり長文を書くことができるように自らに目標を持って臨めると良い。

◆ 地域の歴史と文化（教養1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

高評価をいただき、一生懸命やった甲斐があったと思った。発表や演習を取り入れた講義にしたのがよかったと思う。

今後さらに、地域の歴史と文化に関する研究を深めて、授業に役立てたい。

2. 今後の授業における目標

受講生がさらに大垣の歴史と文化に興味を持ち、自分自身で追求するようになる姿を求めている。

大垣市にある本学で学ぶことができた喜びを学生に味わってほしい。

3. 受講学生に対する要望

プレゼンの技術と能力をいっしょに磨きましょう。